

人生 100 年時代と「生涯学習」 (メルマガ 2019 年 7 月号原稿)

「人生 100 年時代」が多くのところ語られるようになってきました。

「人生 100 年時代」は、ロンドン・ビジネス・スクール教授のリンダ・グラットン、アンドリュー・スコットによって提唱された言葉で、「先進国では 2007 年生まれの 2 人に 1 人が 103 歳まで生きる」ことを予測して、100 年間生きることを前提とした人生設計の必要性が論じられています。

将来、100 歳まで生きることが一般化したとき、今日では考えられない新たな状況が生じていることは間違いないでしょう。

しかし、いかに社会が変化しようとも、人生を豊かにする上で「学び」は常に重要であり、特に自発的で自由な学びである「生涯学習」は、その価値が一層高まることが予想されます。

私は一月程前に生涯学習財団に着任しましたが、ここ生涯学習プラザに集われ、講座を受講される皆さんのお姿を拝見していると、年齢を問わず生き生きとされ、殊にシニア世代の方々にとって活力の源になっていることを、実感しています。

こうしたことから「生涯学習」の重要性や意義、生涯学習財団や協働事業を連携して推進する「かわさき市民アカデミー」の役割の大きさを認識し、少しでも市民の皆さんの自己研鑽や豊かな人生づくりの力になりたいと思っています。(N.W)